



先ほど残念なことに、菅総理から緊急事態宣言 12 日を延長して 9 月末までとなりましたので、今日会場にはどなたもおられないのですが、今月までは YouTube でお届けしたいと思います。

さて今日は、2 か月ぶりの『ざっくり黙示録』ですね。2 か月あいたら、話した私も前回何言ったのか忘れてしまいます。後で復習しながら見たいと思いますが、ちょっとその前に。

最近、大変興味深い本を読んだんです。タイトルは『目の見えない白鳥さんとアートを見にいく』。川内有緒（かわうち ありお）という最近売り出し中の女流作家が友人と一緒に、全盲の白鳥建二（しらとり けんじ）さんを連れて美術館巡りをするという本です。

白鳥さんは幼い時強度の弱視で、小学校に上がる時には完全に見えなくなって全盲です。でも、この方の趣味は、年間数十箇所の美術館を巡って絵画や彫刻を鑑賞すること。目が見えないのに、どうやって絵を見るんだろう。どうやって彫刻を鑑賞するんだろう。一緒に付いてくれている人の言葉を通して、その絵画の内容を知ると言うのです。

見える人は鑑賞する人（白鳥さん）の袖を持って絵の前に立ち、「女の人が犬を抱っこしてます。女の人が着ているセーターの色は赤です。何か憂鬱そうな顔してます。いや、でも、よく見てたら笑ってるかな。」できるだけ正確に 絵の内容を紹介しようとします。

普通は 1 枚の絵を 10 分 20 分、そんなに見ないと思いますが、見えない人に言葉で話すためには 10 分 20 分掛かる。そして、人に説明するためにじっくり絵画を見ると、自分のためだけに見ているときには気づかない色んな細かい点、作者の意図や工夫が見えてくる。

ところで、白鳥さんは色を知らないんです。色を知らない人に「赤いセーター」と言った時、どのようにして“赤”をイメージすることが出来るのでしょうか。生まれてから今まで、赤・青・黄色など、色を 1 回も見たことのない人に“赤いセーター” “黄色いリボン”。

それを聞いてみると「僕は言葉で色を見てます。」「でも、見えておられないじゃないですか。」

実は私たち見える人でも、見えないものを概念で理解したり、把握したりすることがありますよね。例えば電磁波。見えません。でも、概念で何となく分かってるでしょ。

COVID19・新型コロナウイルス。ネット見てたら、ピン球みたいなのにギザギザが付いている絵があるけど、あれは本物じゃありません。あれはコンピューターグラフィックで、デザイナーが描いているものなんですよね。だけど、“スパイク蛋白質がギザギザ付いているようなウイルスです” ということで、肉眼で見えないけど言葉で正確に説明されると、見えてないけど何となく見えて来る。イメージが湧いてきます。

ヨハネの黙示録を見ると、非常に絵画的な書き方をしている場合が多いですねえ。

ヨハネは、神から見せられたり聞かされたりした言葉を黙示録の中に書き残しています。

私たちはヨハネが見たものを見ることは出来ないけれど、彼が、見たものを正確に言葉で説明してくれることによって、見たことはないけど、概念としてかなりの部分知ることが出来るんですね。

今回その本を通して、言葉が持っているものの可能性というか、言葉が持っている力を再確認させられたように思います

さて、今日の黙示録 14 章、2 か月ぶりなのでちょっと復習したいと思います。

人類は未来に向かって動いていますが、やがて人類史上最も凄まじい“患難時代”と言われる期間に突入する、と聖書は繰り返し語っています。旧約でも新約でも。

患難時代は全部で 7 年間続きますが、前半と後半に分けることができます。

後半部分は前半部分とは比べものにならないくらい、凄まじい苦しみの裁きの時代だと語っています。

前半も決して生易しい時代ではありません。前半の 3 年半だけで、世界人口が半分減るからです。

後半 3 年半に起こることを時系列で、時代順番に書いている章が黙示録 15 章と 16 章です。

15 章 16 章で、後半 3 年半に 7 つの鉢がぶちまけられる。すなわち 7 段階で世界が終末に進んで行くと言っているのですが、今日見るのは 14 章です。

14 章には、これから 7 年間に起こることを取りまとめた 7 つの宣言が書いてあるんですね。

分かりやすい講演会は、ダラダラ喋るのではなくて、講師が今日語ることの総論を最初に大まかにざっくりと教えてくれる。そして各論に入って行くのです。

14 章は、後半 3 年半に何があるかを、総論として 7 大ポイントで説明しています。7 つの事が起こると考えていいでしょう。それを起こすための後半 3 年半だと言ってもいいかもしれません。

7 つの事の前半の 3 つは既に終わりました。前半 3 つについては 2 か月前にもう説明したので、今日は後半の 4 つの宣言・4 つのポイントについて、ご一緒に考えたいと思います。

前半を知りたい方はぜひ、YouTube で過去の動画をご覧頂きたいと思います。

★第 4 の宣言 (1 つ目)

9. また、彼らの後 (あと) にもう一人、第三の御使いがやって来て、大声で言った。

「もしだれかが獣とその像を拝み、自分の額か手に刻印を受けるなら、

10. その者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた、神の憤りのぶどう酒を飲み、聖なる御使いたちと子羊の前で火と硫黄によって苦しめられる。」

獣と呼ばれている反キリストを礼拝し、666 の刻印を受ける者たちの結末。これが 4 番目の宣言です。

獣とは反キリストのことで、患難時代の間で自ら神宣言し、全人類に向かって自分にひれ伏すように要求します。自分を神として礼拝することを求めます。

それに応じて反キリストに忠誠を誓う者は、しるしとして右手か額に 666 の数字の刻印を受けます。

おそらく反キリストの名前をヘブライ語にしたとき、数字に換算したら 666 になります。

やがて全人類が、1 人の人物を神のようにひれ伏して拝み伏す。

もちろん例外者はいますが、殆どの方は、この独裁者の完全な支配下に置かれコントロールされてしまう。

そんなことを聞くと、民主主義を経験した人間が、自由な民主主義を手離して独裁体制に戻るなんてこと、あり得るだろうか。一旦自由の味を覚えてしまったら、政治権力者に首根っこ掴まれ、カづくで支配されるなんてだれも望まない。だから、自由主義や民主主義を知っているこの世界が、もう 1 度世界的スケールで独裁体制に入るといふことはあり得ないんじゃないか。

そんなことないですよ。21 世紀に入って、一旦民主主義を経験しながら独裁体制に戻った国って、いくらでもあります。1 番新しいのはどこですか？ アフガニスタンですよ。アフガニスタンはこの 20 年間 民主主義の国でした。今どうですか？ タリバンによる完全独裁政治じゃないですか。

タリバンは 8 月 15 日に首都カブールを制圧し、ものすごい勢いでアフガニスタンを掌握したと言われています。

なぜそんなに急に強くなったのか？ アメリカのバイデン大統領が言ったからです。

「8月31日までに アメリカ兵は全員引き揚げる。」今まで米軍が怖くて自由な動きができなかったタリバンは、米軍がどんどん撤退すればするほど勢いを増して、あっという間にアフガニスタンに制圧した。

8月31日に最後の米軍空輸機が飛び立って、今アメリカ兵いてない。その結果、数千人のアメリカ人・アメリカに協力したアフガン人・米軍が持ち込んだ最新兵器がアフガニスタンに残されてる。

軍隊はその国の国民の生命・財産を守るために存在してるんでしょ。なのに米軍は、アメリカの市民権を持っている人たちが数千人残っているのに、置き去りにして帰って行ったんですね。

なぜそんなことをしたのか？ もちろんバイデン大統領が命令したからです。

アメリカ軍の最高司令官は大統領と決まっています。

では、なぜバイデン大統領は8月31日までの撤退を譲らなかったんでしょう？

おそらくこういうことです。20年前の9月11日 アメリカ同時多発テロがあり、その首謀者アルカイダのオサマ・ビンラディンを匿っていたアフガニスタンと戦争が始まって今年で丸20年。

もうすぐ9月11日ですよ。20年目の9月11日に、バイデン大統領は「アメリカ史上最も長く続いたアフガン戦争を終わらせたのはこの私だ！」と演説したかったんではありませんか？

そのためには、何が何でも8月中に撤退しなければならない。そこに味方が置き去りにされるとしても。これは最高指揮官として最低指揮官です。だから今ものすごい反発。支持率が不支持率を下回っている。

昨日タリバンが政権を発表しましたが、内務大臣はハッカニネットワークの総裁です。

タリバンの中で最も過激派の人物が内務大臣。彼はFBIから指名手配受けています。

つまりテロリストが内務大臣。内務大臣は要するに警察の親玉。国内治安をコントロールするのが内務省で、そのトップがテロリストなんです。そんなことしたら、世界中から“なんちゅう政権や！”とひんしゆく買うんじゃないか。

これについて、一番正確なコメントを出しておられるのが飯山陽（いいやま あかり）さんです。

「筋金入りのテロリストを内務大臣にすること、それこそが過激派が天下を取ったことの立派な証拠になる。わざとやっている。」私も全くその通りだと思いますね。

ということで、完全に逆戻りしていくわけですよ。民主主義を経験したからと言っても、その民主主義を守って行く努力をしないと、自動的にずっと続くと思ったら大間違い。

ロシア・香港・ついでに言うとお隣の韓国。今、法治国家の論理で動いてないです。

日本だって、中国に呑み込まれたら香港みたいになると思いますよ。

これがもっと徹底して、1つの地球的規模の世界帝国になる。

1人の人物が全世界を治める 獣の国と言われる反キリスト帝国がやがて出て来ます。

そのトップが獣と呼ばれる人物。この反キリストは人々の忠誠を求め、そのしるしとして右手か額に666の刻印を押す。666のしるしを持たない者はどうなるか。黙示録13章。

17. また、その刻印を持っている者以外は、だれも物を売り買いできないようにした。

刻印とは、あの獣の名、またはその名が表す数字である。

18. ここに、知恵が必要である。思慮ある者はその獣の数字を数えなさい。

それは人間を表す数字であるから。その数字は六百六十六である。

反キリストの666の刻印を持たない者は売り買い出来ない。

その刻印を受けた者たちだけが売り買い、生活して行くことが出来る。しかし、その刻印を受けた者たちの最後はどうなるのか、というのが1つ目の宣言です。どうなるのかというと14章。

10. その者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた、神の憤りのぶどう酒を飲み、聖なる御使いたちと子羊の前で火と硫黄によって苦しめられる。」

その者とは獣の刻印を受けた者。

神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた、神の憤りのぶどう酒とは、後半3年半に現れる7つの鉢の裁きのこと。7段階で地球的スケールの恐ろしい裁きが起こりますが、それを免れることは出来ません。火と硫黄によって苦しめられるというのは、人間が死後に受ける地獄の世界の描写です。

11. 彼らの苦しみの煙は世々限りなく立ち上る。

獣とその像を拝む者たち、また、だれでも獣の名の刻印を受ける者には、昼も夜も安らぎがない。

つまり、永久に終わりのない苦しみの裁きの中に入る。なぜそのように裁かれるのか？
2つ理由があるんですね。

獣の刻印を受ける人たちは、少なくとも2種類の福音を聞いています。

① 前半3年半に、14万4千人のユダヤ人伝道者によって、世界中の人々が〈御国の福音〉という福音を聞いているんです。御国の福音とは“イエスをメシアとして信じなさい。そうすれば千年王国に入ることが出来ます。反キリストは二セ預言者/偽キリストだから従ってはならない。それは神への大反逆です。イエスこそあなたの救い主。あなたのために身代わりとなって死んでよみがえった方で、間もなく来られるのです。”この御国の福音を彼らは聞いているんです。

② 後半3年半に入る前、その頭に〈永遠の福音〉を聞いているんです。永遠の福音とは14章6節に出て来る福音で、御使いによって語られた“創造主なる神だけを崇めなさい。拝みなさい。反キリストに従ってはならない”という警告です。

つまりこの刻印を受ける人々はうっかりではなく、刻印を受けることの意味を十分理解した上で、反キリストを選んだ人たちなんです。「そんなに深刻な意味があるとは知らなくて受けてしまいました！」そんなんじゃない。

「反キリストの刻印を受けるということは究極の偶像礼拝であり、あなたを造られた神に対する大反逆になり、最も恐るべき結末を迎えるので、決して彼に忠誠を誓ってはならない。あなたが信じるべき方はイエスです。創造主なる神です。」

この〈御国の福音〉と〈永遠の福音〉を知っていながら、自分の意思で明確に拒否して刻印を受けた。知らないで受けた場合は情状酌量の余地があるかもしれませんが、この時代に生きている人たちは全員、それを聞いてるんです。聞いた上でキリストを捨てるんです。

もう1つ。なぜ反キリストに従って行くことで、大きな裁きを受けることになるのか？
反キリストに忠誠を誓うこと=反キリストに従わない者たちを迫害する側に回ること だからです。

12. ここに、聖徒たち、すなわち神の戒めを守り、イエスに対する信仰を持ち続ける者たちの忍耐が必要である。

これはどういうことか。

習近平は、集団指導体制をやめて個人崇拜体制に持って行こうとしているけれど、そのために反日・反米で国内をまとめてますよね。

韓国の文在寅（ムン ジェイン）大統領は、反日・反韓国・反米で国内をまとめようとしています。

来年 韓国の大統領選挙あるけど、これ大変です。与党が勝っても 野党が勝っても大変です。

イランのトップ ハメネイは、反米・反イスラエルでイラン国内をまとめるんですね。

つまり、独裁的指導者はいつも外に敵を作り、皆でその敵をやっつけることで団結に持って行くんです。

患難時代、反キリストのターゲットにされるのは 12 節の人たちです。

聖徒たち、すなわち神の戒めを守り、イエスに対する信仰を持ち続ける者たち。

患難時代においても、イエスを信じた人たちが起こされているんですね。

その人たちは信仰を持ち続けている。捨てさせよう捨てさせようとする力が常に働いているにもかかわらず、忠実にイエスに従った。患難時代のクリスチャンたちへの迫害に対する報復でもあるんですね。

11. 彼らの苦しみの煙は、世々限りなく立ち上る。

獣とその像を拝む者たち、また、だれでも獣の名の刻印を受ける者には、昼も夜も安らぎがない。

拝むは現在形です。ギリシア語で 現在形は継続を表して “拝み続ける”。

ついうっかり、ペコって頭下げちゃったのではなく、常習的に自分の意思を働かせて拝み続ける。

明確な意思を持って、反キリストにどこまでもついて行きますと意思表示をしている人たち。

なので、反キリストが永久に行く場所に、永久について行くんです。それが地獄なんですね。

獣を礼拝し、刻印を受ける者たちの結末は裁きである。これが 4 番目の宣言です。

★第 5 の宣言（2 つ目）

13. また私は、天からの声（御使いではなく、おそらくキリストの声）がこう言うのを聞いた。

「書き記せ、『今から後（のち）、主にあって死ぬ死者は幸いである』と。」

御霊も言われる。「しかり。その人たちは、その労苦から解放たれて安らぐことができる。

彼らの行いが、彼らとともにいて行くからである。」

5 番目の宣言は患難時代後半に、イエスをキリストとして信じる人々への励まし。

後半においても、イエスを信じる人たちが起こされるんですねえ。彼らへの何という励ましかというと、

今から後（後半 3 年半の期間において）、主にあって死ぬ死者は幸いである。

主にあって死ぬ死者とは、キリストを信じて 寿命で亡くなった人たちではなく、キリストを信じる信仰に立って 殉教の死を選んだ人たちです。そういう人たちは幸いである。幸せである。

ここで「そういう目に遭わないように祈りなさい」と書いてないんです。

この状況下でキリストを信じるか信じないかは、生きるか死ぬかの二者択一です。

今の時代はキリストを信じたからといって殺されることはないでしょ。イスラム圏ではあり得ますね。

でも地球的スケールで、どこに逃げてもどこに動いてもイエスを信じること = 死。

その時は死を選ぶほうが幸せである、という励ましなんです。

イエスを信じて殉教の死を遂げることが、なぜ幸いなのか？ 3 つ理由があります。

①その人たちは、その労苦から解放たれて安らぐことができるから。

後半 3 年半は、死ぬよりも生き延びているほうがはるかに辛い。死んでしまうほうが、生き続けてこれから起こることを経験するよりはるかに楽。生きることが殺されるよりもっと困難、苦しい時代。

しかし、キリストにあって殉教した人たちは、天国に迎え入れられて安らぐことができる。

②後半 3 年半に殉教した人たちは、患難時代の終わりにキリストが地上再臨した時、すぐに復活します。今殉教しても、どんなに長い人でも 3 年半後に復活する。永久に死んだままではないんです。人によったら、死んだ翌日 キリストの地上再臨があって復活するということがあり得るでしょう。後半 3 年半の殉教は、次の復活までもうすぐ手の届くところ。

「たとえ死んでも、すぐによみがえるんですよ」という幸いです。

黙示録の中に 7 回、“これこれ こういう者は幸いです” と書いてありますが、この箇所は本当に圧巻ですね。よみがえるという希望があるから、彼らは耐えることが出来るんですね。

③彼らの行いが、彼らとともにいて行くからである。

地上でキリストを信じて死んだ人たちは、当時の人から見ると、実にバカな生き方をした人たちですよ。

「そんな信仰のために財産や健康・進路・会社を失ったり、多くの良い財産を手離してバツカじゃないの?!」みたいなね。

しかし、地上にあって、キリストにあって、損に見えるほうを選んだ人に対して、キリストは必ず何十倍・何百倍にして返して下さいます。彼らが地上でやった行いは彼らについて行く。

救いはキリストのみわざにおいて無料で与えられるのですが、信じた後 どんな生き方をしたのかということについて、キリストは一つひとつ報いて応えてくださるのです。

なので、患難時代後半にイエスをキリストとして信じる人たちは、殉教するとしても幸いです。

これが 5 番目の宣言です。

★第 6 の宣言 (3 つ目)

14. また私は見た。すると見よ。白い雲が起こり、その雲の上に人の子のような方が座っておられた。その頭には金の冠、手には鋭い鎌があった。

また私は見た・また私は聞いた。これは、場面が切り替わって別の話題に移ったことを意味します。だから、この第 6 番目で異なる宣言が始まるんですね。

人の子のような方は、ダニエル書に出て来る預言の成就でイエス・キリストのことです。

イエス・キリストは地上におられた時、ご自分のことをしばしば「人の子は」と言われました。

これは単に人間の子供という意味だけではなく、メシアの別名なんです。メシアの称号と言ってもいいでしょう。人の子とはメシア/救世主。キリストの別の言い方です。

その雲の上に人の子のような方が座っておられた。これは地上再臨する時のメシアの姿。

イエス・キリストの地上再臨の時、クリスチャンに起こることについて書いてあるのが 14 節以降です。

頭には金の冠。地上再臨するキリストは苦しみを受けるために来られるのではなく、王として世界を統治するために来られます。金の冠なので、王様としての衣装をまとうておられるんですね。

手には鋭い鎌があった。鋭い鎌は何のために使うのか？

15. すると、別の御使いが神殿から出て来て、雲の上に座っておられる方に大声で叫んだ。「あなたの鎌を送って、刈り取ってください。刈り入れの時が来ましたから。地の穀物は実っています。」

「あなたの鎌を送って、刈り取ってください。」この表現を覚えておいてください。

鎌だけ送ったらいいんです。“鎌が送られる” という表現です。

キリストが鎌を手にして、地上でサクサク刈って行くというんじゃない。「鎌を送ってください。」

送るだけでいいんです。そしたら、鎌が刈り取ってくれるというんですね。何を刈り取るのか？

15. 刈り入れの時が来ましたから。地の穀物は実っています。
16. 雲の上に座っておられる方が地上に鎌を投げると、地は刈り取られた。

人の子のような方が送った鎌によって地の穀物が刈り取られた。地の穀物とは患難時代の後半3年半(大患難時代)に救われる人たち。この人たちをよみがえらせる・ご自分の下に引き寄せるといことです。聖書にこの部分について語っている箇所があるんですね。

マルコ4章

26. またイエスは言われた。「神の国はこのようなものです。人が地に種を蒔くと、
27. 夜昼、寝たり起きたりしているうちに種は芽を出して育ちますが、どのようにしてそうなるのか、その人は知りません。
28. 地はひとりでに実をならせ、初めに苗、次に穂、次に多くの実が穂にできます。
29. 実が熟すと、すぐに鎌を入れます。収穫の時が来たからです。」

順を追って 少し説明したいと思います。

26.神の国はこのようなものです。人が地に種を蒔くと▶イエスの弟子たち/クリスチャンたちが、地上に福音メッセージという種を蒔く。すると 27.夜昼、寝たり起きたりしているうちに種は芽を出して育ちますが、どのようにしてそうなるのか、その人は知りません。▶蒔いた人も知らないうちに、福音を聞いた人の心の中で聖書の言葉が芽吹いて、クリスチャンになって変えられて行く。

私はそれをよく経験しますね。私はこの夏3週間ほど、関東で講演旅行して参りました。いくつかの集会を巡りながらお話しさせていただいたんですが、ある所で1人の男性が来られました。IT会社の社長さんです。社長といっても、社長含めて全員で3人というね、非常にコンパクトな。「社長というようなもんじゃありません」と仰ってましたが。この方はずーっとユダヤ人に興味を持っておられたんです。

私はもう250本くらいYouTubeでメッセージをアップさせていただいてますが、“イイネ”と“ノーグッド”、指の向き変わるヤツあるじゃないですか。平均すると大体ですよ、グッドの5%がノーグッド。100グッドだったら5人はノーグッドというのが、殆どの動画がそうですね。ノーグッドがないってのは無いんです。5%くらいだったら本当にありがたいですよ。

ところが、グッドの半分がノーグッドというのが2本ありましてね。1本は『私がワクチンを受けた理由』。これは不評でしたね。そして、それに匹敵する大不評だった動画が『ユダヤ人=カザール人の嘘を切る』。これは17万回以上再生されている動画ですが、これまたグッドの半分が「ノーグッドだ!」というね。そんなやつ。

そのIT会社の社長はずっとユダヤ人について知りたいと思ってて、ネット上に飛び交っているユダヤ人情報を聞いていると、色んな人が「今のイスラエルを造ったアユケナジーのユダヤ人はカザール人で、本当のユダヤ人ではない」とか、「スファルディは本当のユダヤ人だが、アシュケナジーは偽ユダヤ人で、先祖はカザール人という中央アジアのトルコ系の人たちである」とか。アカデミックの世界では全然相手にされてないんですよ。私は、なぜそれが違うのかについて理論的に客観的証拠を並べて、その動画でお話ししたのです。

彼は色んな動画を聞いて、何が何だかよく分からなくなったので、違う立場の人の話も聞いてみようと。それで私の動画も聞いてくださるようになって、これを見たんですね。

そしたら、このほうが理にかなっているなあと思うように、徐々に心が変えられて、最終的には国際情勢以上に、(それも気になるんだけど)、それ以上に、自分の内面・人生・人生の目的・創造主と自分との関係・死の問題、そういうメッセージが心に響くようになって、「これ聞いてたら、しまいにはクリスチャンになりそうだ。ヤバイな。」

ある時、大きな IT 企業のソフトの会社と競り合っている物件があって、「我が社は小さくて、まだそんなに実績もないけれど、非常に得意なジャンルだから、ぜひこの仕事をさせてほしい」ということで、接待で銀座のクラブに行きました。非常に高級なクラブで、高級なお酒が出て、下品な変な接待じゃない。座るだけでウン十万みたいなクラブに行って一生懸命接待しているのに、相手の社長が全然楽しそうじゃない。なんか 心ここにあらず。

「すみません。何か私が言ったことで気を悪くありませんでしたか？ 失礼なことをしたでしょうか。私の接待で何か悪いところがあったら指摘してください。直していきたく思いますから。」

「いや、最近こういうことにあまり価値を感じられない。お酒飲んで、綺麗な女の人とペチャクチャ話して、帰って疲れて寝て。そうこうしているうちに、人生がどんどん終わっていく感じがして虚しい。」

「虚しいのでしたら、すごく興味の湧く話があるので、ちょっと聞いてください。」

そして YouTube の話をしたんですね。そしたら、その社長が「君も聞いてたのか」と。

「場所変えよう。キリストについて語り合おう。」

そうしたらママさんが出て来て、「ちょっとお待ちください。な、何かありましたか？」

「私たちは今から聖書について語るから。」「ちょっと待ってください。それだったら私も聞きたいです。私小さい時、日曜学校に行ってたんです。」

要するに、契約取れましたと。今 ある集会に定期的集っておられるんですね。

私の知らないところで、ずっと昔に話した話でその人の心の中に御言葉が蒔かれ、朝は起き夜は寝、そうこうしている間に聞いた人の心に創造主への関心がどんどん芽生えて、内側から変化が起こされていく。素晴らしいと思いましたね。似たような話はもう方々で聞かせていただいて、本当に嬉しいです。

そして、心の中に芽吹いてクリスチャンになった人たちが地上に満たされた時、**29.実が熟すと、すぐに鎌を入れます。鎌を入れます**という言葉の直訳は“送ります。”

つまり、**実が熟すと、すぐに鎌を送ります。収穫（地上再臨）の時が来たからです。**

地上再臨の時が来たら鎌を送って、その時代にキリストを信じた人たちは皆、キリストの前に引き寄せられて行く。これはキリストの地上再臨の時、まさにクリスチャンの身に起こることなんですね。結論は、患難時代の後半 3 年半（大患難時代）でも、人々はたくさん救われるということです。収穫の時、大患難時代の 1 番最後の時に至るまで、刈り取りを待つ穀物となる人たちはたくさん起こされる。

患難時代が許される 1 つの目的は、この時代のこの状況の中でないと、神と向き合おうとしない人たちがたくさんいるからです。そこで人々は福音に触れて、「本物はここにあった」とキリストを仰ぐ人たちが起こされるということですね。

★第 7 の宣言（4 つ目）

7 番目の宣言は、キリストの地上再臨の時に、反キリストに従った者たちに起こること。

結論から言うと、世界最終戦争の戦場はエルサレムです。

正確に言うと、エルサレムの城壁の外側で起こります。

そこにおびただしい数の人間が大集合して、イスラエルを滅ぼすために攻め込んで来ます。

これがいわゆる“ハルマゲドンの戦い”世界最終戦争と言われていることです。

ハルマゲドンはエルサレムではありません。エルサレムよりもずいぶん北のハルメギド、今テルメギドがある所で、一度そこに集合してからエルサレムになだれ込んで来る。これが 17 節以降に書いてあります。

17.それから、もう一人の御使いが天の神殿から出て来たが、彼もまた、鋭い鎌を持っていた。

先ほどはメシアが鎌を送ったけど、今度は御使いが持っています。

18.すると、火をつかさどる権威を持つ別の御使いが祭壇から出て来て、鋭い鎌を持つ御使いに大声で呼びかけた。「あなたの鋭い鎌を送って、地のぶどうの房を刈り集めよ。ぶどうはすでに熟している。」

火をつかさどる権威を持つ別の御使いは裁きを司る御使いと考えてください。火は裁きを表します。

「あなたの鋭い鎌を送って、地のぶどうの房を刈り集めよ。ぶどうはすでに熟している。」

ぶどうが食べごろを過ぎて、もっと熟していくとどうなるか？ ぶどうの皮に付いている酵母菌がぶどうそのものを発酵させるので、酸っぱくなるというか、ちょっとワインのような感じ。だけど、まだまだ飲めたもんじゃない。完全に熟してしまったぶどうは そんなにおいしくない。そこで、ワインにするんです。

19.御使いは地上に鎌を投げて、地のぶどうを刈り集め、神の憤りの大きな踏み場に投げ入れた。

2017 年版の聖書では“踏み場”。以前の聖書では“酒ぶね”と訳されていました。

漆喰でコーティングされた傾斜のついた床（ゆか）があって、ちょうどビリヤードのボードのように隅っこに一点穴が開いています。その床の上にぶどうの房を積み上げて、それを裸足で踏むんです。

そうすると、ぶどうの汁が傾斜にしたがって下に向かって流れ、床の隅に開いている穴にザーッと流れ込んで行くんですね。それを石がめに貯めて、上澄みを取り除いて、何回も濾過し寝かせることによってぶどう酒を作っていきます。

この時 手で搾るのではなくて足で、裸足で踏むんです。靴を履いたまま踏んではならない。

固い靴底を持った靴やサンダルを履いた状態で踏むと、ぶどうの種も砕いてしまいます。

種が砕かれると、ぶどう汁に渋みが入ってしまうんですね。まずくなる。裸足で踏んだら固いぶどうの種は潰れません。実と皮だけが潰れます。それで、ぶどう汁だけを取り出すことが出来るのです。

この作業をする人たちは踏みながらぶどう汁のしぶきを浴びるので、彼らの衣服にシミとなって残ります。赤いぶどうの実から赤いぶどう汁が出ます。山のように積み上げられたぶどうの房を何度も踏んでいるうちに、彼らの衣服はまるで血に染まったかのように染まるんですね。

そのように、やがてエルサレムで大勢の人々の血が大量に流されて死ぬ、ということをごここで預言しているのです。なぜそのように言っているのか？

19. 御使いは地上に鎌を投げて、地のぶどうを刈り集め、神の憤りの大きな踏み場に投げ入れた。

20. 都の外にあるその踏み場でぶどうが踏まれた。すると、血がその踏み場から流れ出て、馬のくつわの
高さに届くほどになり、千六百スタディオンに広がった。

旧約聖書のヨエル書 3 章 13 節。これが先ほど黙示録に出て来た箇所なんですね。

鎌を入れよ。刈り入れの機は熟した。来て、踏め。踏み場は満ちた。石がめはあふれている。彼らの悪がひどいから。

日本語聖書では省略されているのですが、原文では「作物の機は熟した。」
ぶどうではないんです。穀物のことなんです。鎌を入れよ。作物の機は熟した。
すなわち、地上再臨の時にキリストを信じた人の身の上に起こることを語っています。

13. 来て、踏み。踏み場は満ちた。石がめはあふれている。彼らの悪がひどいから。
14. 判決の谷には、群衆また群衆。主の日が判決の谷に近づくからだ。

踏みは先ほどの地上再臨の時の裁きのこと。踏み場は酒ぶねのことで、ぶどうの房を踏む所。
判決の谷には、群衆また群衆。これはヘブライ語の独特の表現で、分かりやすく言うと“大勢×大勢”、
“大勢の二乗”です。判決の谷と呼ばれている所に、数え切れないほどの群衆が集まって来る。
コンサートを聞くためではない。彼らの悪がひどいから。酷い悪を行うために判決の谷に集まる。
では、酷い悪とは何か？ イスラエルを地上から全滅させるという悪です。なぜそれが分かるのか？

ヨエル書 3 章

9. 「国々の間で、こう叫べ。聖戦を布告せよ。勇士たちを奮い立たせよ。すべての戦士たちを集めて上（のぼ）らせよ。
“イスラエル以外の異邦人の国々の間でこう叫べ。イスラエルに対して戦争を布告せよ。勇士たちを奮い立たせよ。全ての戦士たちを世界中から集めてエルサレムに上らせよ。”

全ての戦士たちを世界中から集めてエルサレムに上らせるのは、世界中の軍隊に号令をかける人物がいないと実現しないことですね。それが反キリストなんです。

11. 周りのすべての国々よ。急いで来て、そこに集まれ。一主よ、あなたの勇士たちを下らせてくださいー
“イスラエルの周りのすべての国々よ。急いで来て、ハルマゲドンに集まれ。一主よ、御使いたちを下らせてくださいー”
12. 諸国の民は立ち上がり、ヨシャファテの谷に上って来い。わたしがそこで、周辺のすべての国々をさばくために、座に着くからだ。」

ヨシャファテの谷はエルサレムの東側にある谷です。イエスがいた当時、エルサレムに神殿がありました。神殿山（モリヤの山）と言います。その東側にオリーブ山があります。
神殿山（モリヤの山）とオリーブ山の間がヨシャファテの谷、新約聖書ではケデロンの谷ですね。
ヨシャファテは“主は裁かれる” “ヤーウェなる神がお裁きになる” という意味です。
つまり、イスラエルの首都であるエルサレムに、世界中の軍隊が集まって来てあふれ返るけれど、地上再臨のキリストによって彼らは滅ぼされてしまいます、という預言です。

黙示録 14 章

19. 御使いは地上に鎌を投げて、地のぶどうを刈り集め、神の憤りの大きな踏み場に投げ入れた。
20. 都（エルサレム）の外にあるその踏み場（神の憤りの大きな踏み場）でぶどうが踏まれた。

エルサレムはイエス時代 城壁で囲まれていました。
城壁の東側のすぐ外にある谷がヨシャファテの谷/ケデロンの谷。そこでぶどうが踏まれた。
そこに世界中の軍隊が結集した。世界中の軍隊だから、ヨシャファテの谷だけでは収容できません。
その時にはイスラエル全土に、イスラエルを滅ぼすための軍隊が集まっています。
しかし、それらは一瞬に滅ぼされる。

20. すると、血がその踏み場から流れ出て、馬のくつわの高さに届くほどになり、千六百スタディオンに広がった。

くつわは手綱を引っ掛けるために馬の口にはめる輪っかです。

馬のくつわの高さ、どれくらいですか？ 1m60 とか 1m80 とか、そんなんじゃないですか？

1m80cm くらいまで血が届くようになって、その血が千六百スタディオン（約 300 キロ）に広がった。イスラエルの一番北から一番南までが約 300 キロです。イスラエルを滅ぼすためにイスラエル全土にいた軍隊は、一瞬でミンチのような状態になるのです。詳しくは 19 章に出て来ます。恐るべき箇所です。これがキリストの地上再臨の時に、反キリストに従った者たちの上に起こることです、と宣言しています。

お話をまとめたいと思います。ここで私が一番心に留まった箇所を、最後にお分かちしたいと思います。ハルマゲドンの戦い、合図は火をつかさどる権威を持つ別の御使いの呼びかけなんですね。

では、この御使いはどこから来たのか？

18. すると、火をつかさどる権威を持つ別の御使いが祭壇から出て来て。祭壇から出て来た。この祭壇は天の神殿の祭壇です。

17. もう一人の御使いが天の神殿から出て来たが、と書いてあるからです。天の神殿の中にある祭壇から出て来た、火を司る権威のある別の御使いが合図をしてハルマゲドンの戦いが起こる。

では、天の祭壇って何があるんでしょう？ 黙示録 6 章。患難時代前半の預言の部分です。

9. 子羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てた証しのゆえに殺された者たちのたましいが、祭壇の下にいるのを見た。

天の祭壇の下には、患難時代前半でキリストを信じたために殉教した人たちの魂が集合してたんです。キリストを信じたという理由だけで拷問され、虐待され、迫害され、家族バラバラにされ、最終的に 1 つしかない命を奪われて、おびたしい数の人たちが殺されますが、その人たちは天の祭壇の下に集合して神に祈ってたんですね。

10. 彼らは大声で叫んだ。「聖なるまことの主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者たちに私たちの血の復讐をなさないのですか。」

「こんな酷い事が横行して、なぜあなたは何もアクションを起こされないのですか？ こんなにも酷い、恐るべき殺人や罪が横行してメチャクチャな事が起こっているのに、なぜあなたは正義の審判を下されないのですか？」

11. すると、彼ら一人ひとりに白い衣が与えられた。そして、彼らのしもべ仲間で、彼らと同じように殺されようとしている兄弟たちの数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいるように言い渡された。

もうしばらくとはいつですか？ 7 年間の 1 番最後です。

「この時・満ちた時には、もうこれ以上裁きが先延ばしされることはないから、その決定的瞬間が来るまで待ちなさい。まだ福音を信じていない人たちがいるから待ちなさい」と待たせていたのですが、彼らはずっと叫んでいた。その 正義を希求する祈りの答えとしてハルマゲドンの裁きがあったのです。

ここで言っていることは“祈りは聞かれる。” 但し、祈りはいつも祈った瞬間に聞かれているのですが、答えられるタイミングと、聞かれた瞬間の間にはタイムラグがあることがある。

